

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン		
所在地	〒819-0041福岡市西区拾六町1-21-11 (電話) 092-883-2223		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 10 日	評価結果確定日	令和 4 年 12 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自分らしい暮らしを大切に・・・
株式会社 末広福祉会では、「一人ひとりのライフスタイル」に合わせた「笑顔」「楽しむ」「満足」を提供したいと考えています。高齢者の方が最期まで自分らしく、充実した生活を送れるようにご利用者のペースに合わせ、寄り添ったケアを行うことで、ご利用者様がやりたい事が出来る環境を提供したいと思っています。「もうできないではなく、一緒にやってみる！」もちろん新しいことへのチャレンジも！一緒に考え、支えて行く支援を心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 20 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は、体育館等の公共施設や団地、保育園がある。事業所敷地内は四季折々の草花を楽しむことができ、玄関は盛大かつ華やかな飾り付けを季節ごとに変化させており、来訪者を気持ちよく迎え入れている。法人理念や経営信条、年間計画、接遇、認知症ケアに関すること等がファイリングされた手帳を全職員へ配布し、新人教育や会議等で使用している。防災に関しては、垂直避難の実地訓練を行ったり、備蓄保管場所等を工夫している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内に掲示し、職員間で話し合い作成した理念を、常に意識し、実践している。又、職員会議では、職員皆で理念を読み上げ、意識を高めている。	事業所理念は毎月の会議で全職員で唱和し、目標を決めて意識統一を図っている。法人理念、経営信条、守秘義務、接遇、認知症ケアに関するマニュアル等をファイリングした手帳を全職員へ配布し、会議や研修で使用している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、夏祭りを開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、各事業所において小規模の夏祭りを実施した。	地域の清掃活動へ参加したり、小学校によるペットボトルランタンの制作活動にペットボトルを提供する等、協力している。コロナ禍前は事業所主催の夏祭りにボランティアを受け入れたり、年3回ほど保育園児の慰問を受けていた。地域住民から梅酒や花のおすそ分けを頂く等、関係性が保たれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽会や毎年開催していた夏祭りは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかったが、地域の方に挨拶、声掛けを行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、地域、行政、ご家族に現状報告、活動内容などを報告している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催出来ない時があったが、その都度案内状、議事録、ご意見メモ等を送付し、日々のケアサービス向上に活かせる様努めている。	コロナ禍のため、ほとんど書面で開催している。構成員には事業所の近況報告、行事の予定や報告、ヒヤリハット報告、各種委員会活動報告、防災訓練に関すること等を記載した書面を送付している。書面には意見の記入欄が設けてあり、自由に記入することができる。面会に対する意見が多くあり、ガラス越しの面会ができるようにする等、意見を取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂いた後、介護上の疑問等を相談し、書面会議時は議事録を送付して、意見や疑問をFAX、又は返信して頂き、活用している。	行政とは電話でのやり取りが多く、グループホームの人員配置に関することや介護報酬加算の相談や確認を行っている。広報誌「フラワーガーデン花便り」を行政に送付し、事業所の実情を報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修や委員会会議などで話し合い、確認している。月一回実施している部署会議でも委員を中心として、身体拘束やスピーチロック等の勉強会を開き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所は身体拘束はしない方針で、日中は玄関や居室は施錠せず、入口ドアの開け閉めが音で分かるように工夫している。職員は委員会や内部研修会で不適切ケア等について学び、実践できるよう努めている。また、職員代表者が権利擁護推進に関する外部研修に参加している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員会議の場でも話し合い確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外研修やマニュアル等を使用し、会議の場で勉強会を行っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についてのパンフレットが準備され、家族からの相談にいつでも対応できるようにしている。管理者が外部研修を受講しているが、伝達研修は行っておらず、研修記録がない。	管理者だけではなく職員も制度を理解して、家族からの相談に対して関係機関と連携して支援を行う役割がある。職員に伝達研修を行い、研修記録を残してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に不安や問題点がない様、十分に時間をかけて説明している。利用料の変更があった場合、その都度、変更の内容を説明し、同意書の取り交わしを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換、又、来館時に会話の中での意見や要望などその都度対応し、改善策を考えている。やむを得ず会議が中止となった際は、ご意見メモを送付し、回答して頂いた意見について、日々のケアサービス向上に活かせるよう努めている。	利用者からの意見は、日頃のコミュニケーションで聴取しており、外出や食べたいものを家族と連携して差し入れしてもらう等、意見を反映させている。家族からのコロナ禍における面会の要望に対し、直接面会は実現できない時期もあったが、ガラス越しの面会や日頃の様子を動画や写真で撮影し、DVDや写真を送付する等、状況に応じてできることを考えて実践している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に自分の意見や要望などを言えるように雰囲気作りに努め、必要時には、個人面談を行い、改善、反映出来るように心掛けている。	管理者は職員会議や面談で職員の意見を聞き取り、運営に反映している。職員からの要望があり、ピアノやギター、ウクレレによる楽器演奏等のイベントを開催したり、面会ができない家族へビデオレターを作成する等の提案を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに職員は自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は人事考課で評価し、心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	学歴、経験、年齢など重視せず、福祉に対する思いや思いやりなど、本人のやる気を重視している。	事業所は職員の希望する研修や資格取得に関して、受講費用の補助やシフト調整などを支援している。男性職員も育児休暇取得の実績があり、仕事と育児の両立できるように事業所全体でサポートしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や研修で定期的に話し合い、職員間でも、その都度、気づいたことは注意しあひ改善している。	高齢者や認知症に関する人権問題について内部研修を実施し、伝達研修を行っており、全職員が人権について学ぶ機会があるが、研修記録がない。	研修を実施した際は、研修記録を残してほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修をいつでも受けられる体制を確保している。又、教育担当者を設置し、その人の力量にあった指導を心掛けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や懇談会など、積極的に参加し、交流を深め、情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、性格、趣味など把握し、又、日々の様子観察を行い、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して日頃から笑顔で話しやすい環境作り、信頼関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に対応出来るように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事は維持できるように支援し、一緒に生活活動を取り組めるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会制限をしなければならない時もあったが、電話などで状況を把握して頂いている。又、家族の手紙などを通して共に支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間も制限しないでいつでも外出、外泊できる時間を設けていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、やむを得ず制限しなければならず、面会については、リモート面会を行い、ご家族と顔を見ながら会話をしていた。	職員は利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所、嗜好等を把握し、日頃のケアに活かせるよう努めている。入居後に知り得た情報は伝達ノートで引き継がれている。コロナ禍前に地域のふれあいサロンへ通っていた利用者に対して、入居後も参加できるよう支援したり、年賀状のやり取りや地域へのドライブを実施していた。今後は感染状況を確認しながら開催する予定である。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話やレクを楽しんで頂けるように声掛けや支援に努め、意思疎通が困難な方でもコミュニケーションやスキップを行い、その場の雰囲気を楽しんで頂けるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、法事等にも出席している。何かありましたら、いつでも相談して下さいという姿勢をもって接している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当ケアスタッフを決め、希望や要望を聞いて、全スタッフが把握し、家族の意見も取り入れ、対応できるようにしている。	日常生活の中で思いや要望の確認をしている。意思疎通が難しい利用者には、表情から思いをくみ取ったり、家族から情報を確認するようにしている。ビールを購入したいとの希望があり、散歩の時に一緒にビールを買いに行く等、利用者の要望に応じて支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの生活歴の聞き取りに時間をかけ、センター方式などを活用し、全職員が把握できるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットによる記録閲覧や申し送りノートなどで把握し、共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様からの意見や要望を配慮し、カンファレンスを行い、意見や要望が取り込まれるように工夫している。	利用者や家族の意向を確認し、介護職員・理学療法士・医師の意見を取り入れ、個別的な介護計画書を作成している。3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。介護計画は利用者や家族に説明し、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録（気づきシート、伝達ノート、ケア記録）や申し送り、会議での意見の話し合いなど情報共有を常に行い、日々の介護に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出、外泊はやむを得ず制限されたが、本人様やご家族の希望や要望に合わせ、通院の支援等も行っている。併設の事業施設との連携により、機能訓練など、多様化したサービス等の提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により、避難訓練を行い、地域の方との交流や中学生の職場体験等、体制を整え、理解や協力を得られるようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を重視し、入居時の選択にできるようにしている。月二回の定期往診、体調不良時の臨時往診などで主治医、ご家族、職員と連絡を密にしている。	利用開始時に希望されるかかりつけ医を確認し、今までのかかりつけ医を希望される場合、家族付き添いにて受診をしている。家族が付き添えない場合は、職員が受診を支援している。緊急時は職員が付き添い、家族にも来てもらうようにしている。定期受診時に家族が付き添う場合は、現在の状態や確認してほしい内容を家族に伝えている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での申し送りや伝達ノート、口頭、個人の医療記録ファイル等で情報の共有、異常の早期発見に努め、必要な時は、他部署の看護師にも協力を依頼している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会が制限され、お見舞いに行くことが出来なかったが、電話等で入院先との情報交換を行っている。また、退院前には可能な限り家族を含め、医師からの説明を受けるようにし、受け入れ準備を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて、入居者様の問題点やご家族の意向を考慮しながら対応策を話し合い、ご家族様の意向をその都度確認しながら、医師や看護師との連携を図っている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の方針が明文化されており、契約時に説明している。重度化した場合、医師より状況説明をしてもらった後、利用者や家族の意向を尊重しながら、方針を共有し、事業所が対応できる支援について説明を行っている。状況変化に応じて、随時話し合いをしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急講習を定期的に受講している。また、緊急時のマニュアルを作成し、いつでも実践出来るように勉強会をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年に2回、避難訓練、呼集訓練を実施している。	防災マニュアルが整備されている。避難訓練は年2回実施され、内1回は夜間想定となっている。施設内に非常用食品や備品が準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し、理解し、対応している。また、個人情報保護法を厳守し、安心して過ごして頂けるように配慮している。	トイレの時はドアを閉め、見守りは少し離れて行う等、プライバシーに配慮している。記録は目が届かない場所に置き、個人情報が他者にもれないようにしている。管理者は、利用者のプライバシーを損ねないように職員に意識づけを会議で行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常生活を過ごして頂けるように声掛け、働きかけを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の希望に少しでも添えるように生活リズムの支援、レクなどの支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせた服装や本人の希望や好みを重視している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員、また、利用者様同士で楽しく会話をしながら準備し、美味しく楽しく食事をして頂けるように努めている。	食事は厨房で調理され、ユニットで配膳している。利用者にテーブル拭きや食器洗いをしてもらっている。給食委員会で利用者が食べたい物を伝え、メニューに取り入れてもらっている。年に3～4回、利用者と一緒にホットケーキやたこ焼き、スイートポテト等のおやつを作って楽しんでもらう工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分チェックにて摂取量の把握に努めている。食事がバランスよく摂取出来るように、形態の工夫や提供時間の工夫など一人一人に合わせて支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後、口腔ケアを行い、入居者様に合った用具を使用している。また、口腔衛生管理指導にて、医師の助言や指導等、連携を取り、口腔機能の低下防止に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて、排泄のリズムを把握し、さりげない声掛けでトイレへお連れし、失敗されないように見守りや声掛けを行っている。また、本人様が、スムーズに排泄出来る方法などを職員で意見を出して話し合っている。	利用者の排泄パターンやサインを把握し、誘導を行っている。オムツやパット類の種類や交換時間は、利用者の状況の変化に応じて、随時見直している。利用者が失禁した場合は、直接的な言い方をしないで、さりげなく誘導をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック、食事チェックにて、水分量・食事量等を把握し、日中は日々の運動に腸活運動を取り入れたり、排便コントロールの把握に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は固定せず、その日の体調に合わせて、個別に入浴しやすい環境を提供している。	入浴は2日に1回行っており、希望すれば毎日入浴できる。脱衣場が寒くないように環境を整え、バラ湯や浴槽に入浴剤を入れたり、利用者と一緒に歌を歌って入浴を楽しめるようにしている。入浴を望まない利用者には、声かけの仕方を工夫して支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて、離床や臥床を支援している。また、昼夜逆転や不眠を解消するため、日中は活動的に過ごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情を管理し、把握している。不明な点はかかりつけ薬局の薬剤師に相談し、確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力に合わせた役割やお手伝いを提供し、達成感を感じて頂けるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせたドライブレクやイベントを企画している。家族会や夏祭りは地域の方々との交流を入居者様、ご家族様も楽しみにされている。	気候が良い時期は、ほぼ毎日散歩を行っている。散歩の途中で、近くの川にいる鯉にえさをあげたり、コンビニに買い物で立ち寄ることがある。3ヶ月に1回、コスモス見学や紅葉狩り、初詣等にドライブしている。コロナ禍前は外出に行ったり、家族と外出されていたが、現在は行っていない。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望に合わせ、買い物、レク等実施している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が厳しい時期など、手紙や電話等にて、常に連絡出来るように支援している。また、電話や手紙が難しい入居者様へは、代筆や代弁にてお知らせしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは色彩を見やすい色合いにし、落ち着いて過ごせるように努めている。居間からは中庭が一望でき、季節の花々を楽しんで頂き、開放感がある暮らしを提供している。	リビングは季節を感じる事ができるように、職員と利用者が一緒に作った貼り絵や作品を飾っている。ユニットのテーブルに生け花をしていた利用者と一緒に花を生けたり、南向きの居室は、夏は陽射しが強いのでカーテンで調整する等、利用者が居心地が良く過ごせるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは入居者様がくつろげるようにソファやテレビ等を設置している。また、照明等も落ち着いた色合いにしている。食事中は音楽をかけ、食事に集中できる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様やご家族様の希望や要望を取り入れ、ご家族様の写真や思い出の品などを飾り、居心地よく過ごせるように支援している。	居室前の表札の上に利用者や利用者の好きな写真を貼っている。利用者が使い慣れた家具やソファ、仏壇、テレビ、ラジオ、写真等が持ち込まれている。居室内には、写真や行事でもらった賞状が飾られ、利用者らしさを感じられる居室である。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた居室内の配置、安全にも工夫している。出来ること、分かること、したいことを活かして、自立した生活が送れるように細かな変更も行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内に掲示し、職員間で話し合い作成した理念を、常に意識し、実践している。又、職員会議では、職員皆で理念を読み上げ、意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、夏祭りを開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、各事業所において小規模の夏祭りを実施した。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽会や毎年開催していた夏祭りは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかったが、地域の方に挨拶、声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、地域、行政、ご家族に現状報告、活動内容などを報告している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催出来ない時があったが、その都度案内状、議事録、ご意見メモ等を送付し、日々のケアサービス向上に活かせる様努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂いた後、介護上の疑問等を相談し、書面会議時は議事録を送付して、意見や疑問をFAX、又は返信して頂き、活用している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修や委員会会議などで話し合い、確認している。月一回実施している部署会議でも委員を中心として、身体拘束やスピーチロック等の勉強会を開き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員会議の場でも話し合い確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外研修やマニュアル等を使用し、会議の場で勉強会を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に不安や問題点がない様、十分に時間をかけて説明している。利用料の変更があった場合、その都度、変更の内容を説明し、同意書の取り交わしを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換、又、来館時に会話の中での意見や要望などその都度対応し、改善策を考えている。やむを得ず会議が中止となった際は、ご意見メモを送付し、回答して頂いた意見について、日々のケアサービス向上に活かせるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に自分の意見や要望などを言えるように雰囲気作りに努め、必要時には、個人面談を行い、改善、反映出来るように心掛けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに職員は自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は人事考課で評価し、心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	学歴、経験、年齢など重視せず、福祉に対する思いや思いやりなど、本人のやる気を重視している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や研修で定期的話し合い、職員間でも、その都度、気づいたことは注意しあい改善している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修をいつでも受けられる体制を確保している。又、教育担当者を設置し、その人の力量にあった指導を心掛けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や懇談会など、積極的に参加し、交流を深め、情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、性格、趣味など把握し、又、日々の様子観察を行い、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して日頃から笑顔で話しやすい環境作り、信頼関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に対応出来るように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事は維持できるように支援し、一緒に生活活動を取り組めるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会制限をしなければならない時もあったが、電話などで状況を把握して頂いている。又、家族の手紙などを通して共に支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間も制限しないでいつでも外出、外泊できる時間を設けていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、やむを得ず制限しなければならず、面会については、リモート面会を行い、ご家族と顔を見ながら会話をして頂いた。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話やレクを楽しんで頂けるように声掛けや支援に努め、意思疎通が困難な方でもコミュニケーションやスキップを行い、その場の雰囲気を楽しんで頂けるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、法事等にも出席している。何かありましたら、いつでも相談して下さいという姿勢をもって接している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当ケアスタッフを決め、希望や要望を聞いて、全スタッフが把握し、家族の意見も取り入れ、対応できるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの生活歴の聞き取りに時間をかけ、センター方式などを活用し、全職員が把握できるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットによる記録閲覧や申し送りノートなどで把握し、共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様からの意見や要望を配慮し、カンファレンスを行い、意見や要望が取り込まれるように工夫している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録（気づきシート、伝達ノート、ケア記録）や申し送り、会議での意見の話し合いなど情報共有を常に行い、日々の介護に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出、外泊はやむを得ず制限されたが、本人様やご家族の希望や要望に合わせ、通院の支援等も行っている。併設の事業施設との連携により、機能訓練など、多様化してサービス等の提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により、避難訓練を行い、地域の方との交流や中学生の職場体験等、体制を整え、理解や協力を得られるようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を重視し、入居時の選択にできるようにしている。月二回の定期往診、体調不良時の臨時往診などで主治医、ご家族、職員と連絡を密にしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での申し送りや伝達ノート、口頭、個人の医療記録ファイル等で情報の共有、異常の早期発見に努め、必要な時は、他部署の看護師にも協力を依頼している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会が制限され、お見舞いに行くことが出来なかったが、電話等で入院先との情報交換を行っている。また、退院前には可能な限り家族を含め、医師からの説明を受けるようにし、受け入れ準備を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて、入居者様の問題点やご家族の意向を考慮しながら対応策を話し合い、ご家族様の意向をその都度確認しながら、医師や看護師との連携を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急講習を定期的に受講している。また、緊急時のマニュアルを作成し、いつでも実践出来るように勉強会をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年に2回、避難訓練、呼集訓練を実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し、理解し、対応している。また、個人情報保護法を厳守し、安心して過ごして頂けるように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常生活を過ごして頂けるように声掛け、働きかけを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の希望に少しでも添えるように生活リズムの支援、レクなどの支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせた服装や本人の希望や好みを重視している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員、また、利用者様同士で楽しく会話をしながら準備し、美味しく楽しく食事をして頂けるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分チェックにて摂取量の把握に努めている。食事がバランスよく摂取出来るように、形態の工夫や提供時間の工夫など一人一人に合わせて支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前、口腔ケアを行い、入居者様に合った用具を使用している。また、口腔衛生管理指導にて、医師の助言や指導等、連携を取り、口腔機能の低下防止に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて、排泄のリズムを把握し、さりげない声掛けでトイレへお連れし、失敗されないように見守りや声掛けを行っている。また、本人様が、スムーズに排泄出来る方法などを職員で意見を出して話し合っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック、食事チェックにて、水分量・食事量等を把握し、日中は日々の運動に腸活運動を取り入れたり、排便コントロールの把握に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は固定せず、その日の体調に合わせて、個別に入浴しやすい環境を提供している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて、離床や臥床を支援している。また、昼夜逆転や不眠を解消するため、日中は活動的に過ごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情を管理し、把握している。不明な点はかかりつけ薬局の薬剤師に相談し、確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力に合わせた役割やお手伝いを提供し、達成感を感じて頂けるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせたドライブレクやイベントを企画している。家族会や夏祭りは地域の方々との交流を入居者様、ご家族様も楽しみにされている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望に合わせ、買い物、レク等実施している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が厳しい時期など、手紙や電話等にて、常に連絡出来るように支援している。また、電話や手紙が難しい入居者様へは、代筆や代弁にてお知らせしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは色彩を見やすい色合いにし、落ち着いて過ごせるように努めている。居間からは中庭が一望でき、季節の花々を楽しんで頂き、開放感がある暮らしを提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは入居者がくつろげるようにソファやテレビ等を設置している。また、照明等も落ち着いた色合いにしている。食事中は音楽をかけ、食事に集中できる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様やご家族様の希望や要望を取り入れ、ご家族様の写真や思い出の品などを飾り、居心地よく過ごせるように支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた居室内の配置、安全にも工夫している。出来ること、分かること、したいことを活かして、自立した生活が送れるように細かな変更も行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		